

大特集 「ふたり目」で生活はどう変わる? 0・1・2・3歳

AERA  
with

Baby

2013

2

月号  
隔月刊

定価 680円

子育てという、しあわせ。

ふたり  
目  
の  
ミ  
ツ  
リ

どうする?

お金が  
かかる!

年齢も  
心配!

1人でも  
大変!

スペシャル付録

絵本  
コンテスト  
最優秀作品



乾燥肌も! アトピーも!  
肌を強くする  
「暮らし」と  
「スキンケア」

お作法のカリスマ 近藤珠寶が伝授  
マナーの極意

親の離婚・虐待 etc.  
体験者が語る  
子どものときの気持ち

「出生前診断」を考える

人気連載

鈴木のりたけの  
子育て現場実習

「伝説のパパ!」陳 建一

寒い日も雨の日も  
これで乗り切る!

おうち  
あそびの  
ネタ帳 55



# 「たたかないで！ どうやったら私は 愛してもらえるの？」

岡田さんは家族から虐待を受けて育ちましたが一人息子の存在によりその経験を克服。現在は虐待防止のための活動などを行っています。

私は、幼い頃から母親に精神的、肉体的暴力を受けていました。難産の末に生まれた私に母は、「この世に出てきたときに私を苦しめ、それからずっとあんたは私を苦しめてるんや」と言い続けました。「あんたは悪魔の子や」「産まへんかったらよかった」「死ぬ」「殺してやりたい」「親への罪をつぐなえ」と。母は成績のよい7歳上の長兄と5歳上の次兄が自慢で、私は常に兄たちと比較され、否定されていました。母の立場が強い家庭の中では、ふたりの兄も父も私を助けてくれるどころか、虐待に加わるようになりました。

事あるごとに家族にののしられ、太い柱にくくりつけられ、暴力を振るわれる。私は外からはお手本のようにだと思われている家族のストレスのはけ口だったのです。地獄のような現実と命の危険も感じる恐怖でさらに泣き叫び、

呼吸困難に陥っても猿ぐつわをされ、終わりのない拷問が続きました。そのとき私は、ほかの友達の家庭でも同じことが起こっていると思っていました。

## 兄からの性的虐待 母はそれを黙認した

毎日繰り返される虐待に、私は、「この家の本当の子どもではないから、みんなの気に入らない行動をしてしまつて、家族の厄介者になつていく」。そう思っていました。

当時、優しくしてくれる「近所のお寺のおばちゃんの家」や「音楽好きのいとこの部屋」が、家族からの数少ない逃げ場所でした。なかでも歌を歌うことは、私をつらい現実から逃避させてくれる唯一の楽しみ。好きな歌を歌うことで何とか生きてこられたのだと思います。

## どんなことが虐待になる？ 児童虐待にあたる4つの行為

### 心理的虐待

言葉による虐待（脅し、非難する、人格否定など）を行い、恐怖感や絶望感を与える。わざと極端に無視する行動をとる、ほかのきょうだいと区別して扱う、など。

### 身体的虐待

たたく、殴る、蹴るなど、身体に暴力を振るう。さらに深刻になると、傷を負わせたり、生命に危険が及ぶ暴行を加えるようになる。

### 性的虐待

性行為を強要する、性器や性交場面を見せる、ポルノ写真や映像の被写体にするなどの性的暴力を子どもに加える。

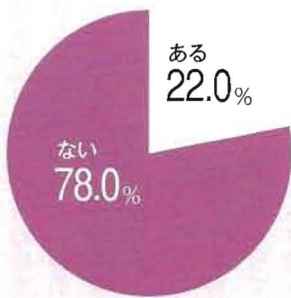
### ネグレクト

育児放棄。養育の怠慢や拒否により、子どもの健康状態や安全に配慮しないこと。食事を与えない、衣服を着替えさせない、入浴させない、置き去りにするなど。

## 虐待された記憶がある？

「子どもの頃に虐待された記憶がある」と答えた人は22%。5人に1人は虐待された心の傷を負っている。なかには、親としてはしつけのつもりでも、子どもには愛情が伝わっていないケースも？

調査協力：マーシュ



## どんな虐待を受けた？

(複数回答可)

1位 母親からの言葉の虐待	56.1%	1位、2位共に母親からの虐待という現実。育児ストレスが出てしまうこともあるのでは？
2位 母親からの身体的虐待	48.5%	父親の場合は、身体的虐待のほうが多い。複数の虐待を受けている人も少なくない。
3位 父親からの身体的虐待	31.8%	
4位 父親からの言葉の虐待	19.7%	
5位 親の育児放棄(食事、洗濯、入浴などの世話をしない)	9.1%	
6位 父親からの性的虐待	6.1%	

小学生の頃には長兄から性的虐待を受けるようになりました。最初はどんなことなのか理解もできませんでしたが、思春期になって事の重大さがわかるように。やつとの思いで母に相談したら、「お兄ちゃんがそんなことをするはずがない、お母ちゃんが解決するから、お父ちゃんには絶対言うな」と口止めされたけど結局、何もしてくれなかった。私は母に期待し続けていただけに、絶望も大きかった。

当時の私は、とにかく母にほめられたかった。母に愛されたかった。しかし、それがかなえられず、自分はダメな人間だと思い込んでいたんです。家族以外は悪い人たちだから関わるなと教えこまれ、そう信じて育ちました。

### 息子の言葉が私を救ってくれた

やがて、早く家族のもとを出たいとの思いから、住み込みができる会社で働き始めました。その後、23歳で結婚・出産したものの、6年後に離婚。息子とふたりで暮らし始めました。

見知らぬ土地で働きながら必死に子育てをしました。ストレスもあったの

でしょうが、何かが引き金になって一度スイッチが入ると、冷静な態度で息子に物事を教えられず、無意識のうちに手を上げてしまった。息子は恐怖で声も出ず顔は硬直し、現実を起こったことが理解できていない……。いつもの優しい私を期待している息子をわざと無視して意地悪をする。心が収まっ

てようやく、私は自分が虐待する親になつていたことに気付かされました。

謝って、なぜ怒ったのかを説明し、私が受けた虐待についても告白しました。そうして時間をかけてふたりで話し合いながら信頼関係を築いてきたのです。

小学4年生になった息子に、こう言われました。「お母さんは悪くない。悪

おかだ ゆき  
家族から虐待を受けて育つ。被虐待体験者の独自の音楽療法で、虐待の体験をプラスに変える方法を編み出す。歌のほかに、児童虐待防止のための活動を行う。

いのはおばあちゃんや。僕がお母さんを助ける。この言葉が、私を長年の苦しみから救う第一歩になりました。

### 親も完璧ではない 子どもと一緒に成長して

「親に嫌われるようになったきっかけは何？」と思い返して、ライティングセラピー（自分の生い立ちを書くことで分析する手法）をしたことで大きな気付きがありました。

過去を振り返り、私は何も悪いことはしていません。私の家族が悪いということがわかったんです。このことを「みにくいあひるの子供たち」という本にしたら、たくさんの方が共感してくれて。世の中には私と同じような経験をしている人がいることを知り、びっくりしました。初めて自分の存在が認められたような感じがしました。そして、親に甘えたい、振り向いてほしい、わびてほしいという気持ちが消え

### 岡田さんが行っている 児童虐待防止活動

サークル・  
ダルメシアン

http://www.cdal.org/  
080 (3456) 3524 (無料電話相談)

NPO「サークル・ダルメシアン」は、岡田さんが代表を務める児童虐待防止のための市民活動団体。賛同する音楽家たちがボランティアで活動し、岡田さん独自の音楽療法の普及や、虐待に悩む人のカウンセリング、虐待防止の講演会などを行う。

ていったんです。そして、もつと虐待で苦しんでいる人の役に立ちたいと、NPOを立ち上げました。

虐待は子どもには全く非のないことです。でも、虐待されている子どもは常に「どうして？」と思い続けている。だから、もし子どもに手を上げてしまった場合は、理由を説明して謝ってほしいと思います。親になったからといって、完璧な人間になれるわけではありません。子どもと一緒に成長していけばいいのです。

## 「お母さんは悪くない」 息子のひと言が、自分を責め続けた 私を救ってくれた

